令和３年度

「学校（自己）評価報告書」

岩見沢市立東光中学校

東光中学校オリジナルキャラクター『東（ひがし）くん』『光（ひかり）ちゃん』

□学校の概要

推進校	岩見沢市立東光中学校				
校長名	庄司　直樹			教職員数　３３名	
学　年	１年	２年	３年	特別支援	合　計
学級数	４	３	３	５	１３
生徒数	１１８	１１７	１１８	１６	３６９
住　所	岩見沢市５条東１４丁目１番１号				
電　話	０１２６－２２－０３２９				
ＦＡＸ	０１２６－２２－１５４４				
ＵＲＬ	https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/content/detail/1506549/				
E-mail	tokoov@mc.city.iwamizawa.hokkaido.jp				

令和３年度東光中学校経営方針

１、学校経営の基本理念

子どもたち一人一人の自己実現や幸福の追求、国家の理想・繁栄の実現を期して頼むべきは、今も教育の力をおいてほかにない。教育は、子どもたちの人格の形成をめざし、未来を担う人間を育成するという崇高な営みである。

近い将来、人工知能(AI)、ビックデーター、ＩＯＴなどの技術革新が一層進展し、社会や生活を大きく変えていく Society5.0 という新しい時代が到来する。学校には、このような新しい社会に向けて、変化への適応のみならず、自らが自立して主体的に社会に関わり、人間ならではの新しい価値を創造し、将来を創り出すことができる力を育成させることが求められている。

また、これからは、確かな学力のみならず、幅広い視野で異文化を理解する力や、自ら主体的に行動できる力、進化する情報通信技術を活用する力などを育成することは極めて大切なことである。

その上で、生涯にわたり一人一人が持つ個性や能力を伸ばし、自らの可能性を高め、誰もが互いに多様性を認め合い、共に支え合う社会を創ることをめざし、「子どもたちを未来につなげる」ために様々な取組を進めていかなければならない。

更に、これからの学校は、「信頼される、安全で安心できる学校づくり」をより一層推進しなければならないことから、その特性を考えると教員一人一人の資質能力が極めて重要である。プロ教師としての授業づくりや子どもたちと向き合う時間の在り方など、子どもたちや保護者からの信頼を得られていることが最大の指導力とも言える。その観点からも教職員の不祥事は絶対にあってはならない。

「社会を活きぬく力を身につけ、未来を切り拓く人材の育成」の実現を目指し、魅力ある教育活動を展開する事が私たちプロ教師としての存在価値である。

学校の主人公は子どもたちであり、教師は支援者。子どもたちや保護者の思いや願いに応える教育活動を創造し、温かい人間関係や自律した生活を基に、個性を認め伸ばし、学びの実感を感得させることが学校の使命と責任である。

2、学校経営の重点目標

～子どもたちを未来につなげる～

『「教えて考えさせる」授業』 ⇒「子どもと創る授業」づくり
『ピア・サポート』 ⇒支持的・親和的な集団風土の確立
『特別の教科 道徳』 ⇒豊かな人間性・社会性の育成

東光中学校は、公教育としての使命と責任を果たし、Society5.0 の時代を見据えながら、未来を担う子どもたちに、社会を活きぬく実践力を確実に育成する責務がある。

笑顔に満ち、知・徳・体全てに優れた子どもを育成するため、教職員個々の特性が共通理解の中で力量の向上を図り、組織として機能しながら、家庭・地域と総力をあげて、子どもを自立へと導く教育実践を行うことが重要である。

高い学校力を持つ真の学び舎は、教師自ら教師力を磨き、子どもたちに寄り添い、家庭・地域等からの支援に反映させてこそ実現する。東光中学校の教職員は、情熱と迅速な行動力で組織的に取り組み、子どもの変容で説明責任を果たし、家庭・地域、そして何より子どもたちから信頼を得る特色ある学校づくりを推進する。

3、学校教育目標について

子どもたち一人一人には、人生の目標とやり抜く強い意志をもたせ、力強く歩み未来を拓く「志」、また、他者や自然等のかかわりを大切にできる豊かな心をもちながら生きる「絆」を東光中学校の教育目標（理念）とします。

「志」・「絆」を実現するために、研鑽や信頼・安全を学校経営の基盤に据え、充実を図りながら、子どもたちに「真に生きる力」を培うため、学校・家庭・地域・行政が一体となって教育活動を推進していくことが重要です。

子どもの姿から明らかになる育成をめざす資質・能力を踏まえつつ「学校の教育目標を明確にする」ことであると考えます。各教科等の指導により資質・能力の確実な育成をめざすとともに、日々の実践が学校の教育目標の達成に向かっていることを今まで以上に意識するためであり、子どもたちが学校教育目標は「志」・「絆」と語ることができることが最も大切なことです。

教育目標	志	絆
（理念）	人生に目標をもち、 やり抜く強い意志 （主体的に生きる）	温かい人間愛と 調和のある精神 （他者と協働して生きる）

教育は、 人格の形成	《理想》 自己の目標を実現しようとする態度を養う。 《感謝》 自己の存在を認識し、支え合う素晴らしさを誇りにする態度を養う。	《貢献》 国際社会の平和と発展や環境の保全に努め、未来を拓く主体性のある日本人の育成。 《 命 》 自分を生かすことの素晴らしさや前向きに生きることの崇高さを身につけることができる生徒の育成。
学校は、 人づくり	《 学 》 進んで学び、よく考え、学ぶ喜びを実感できる態度を養う。 《 夢 》 未来の自分への姿を確立できる創造力を養う。	《 愛 》 自己の成長にかかわる全ての人や物、故郷を大切に思い、信頼することができる生徒の育成。 《責任》 社会に対して自己の役目として果たすべき道義的・法的な義務を担う生徒の育成。
《教職員のスローガン》	１５の春に責任をもつ！ 学校の主人公は子どもたち！ 子どもたちが誇れる教師になろう！	

《めざす子どもの姿》

◎人生に目標をもち、やり抜く強い意志を持つことができる生徒

◎温かい人間愛と調和のある精神を持つことができる生徒

《子どもに言わせない、教職員・家庭・地域が・・・》

◎私たちが社会に出た時に、通用する力をどうして育ててくれなかったの？

《志》２つの理念と８つの思い

志	理想	(1)高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもたせ、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる力を育むとともに、真実を大切にし、真理を探究させ新しいものを生み出させる力の育成に努める。【道徳】 (2)探究的なプロセスを一層重視し、見方・考え方を働かせ、実生活・実社会の中で様々な課題に適切に対応できる生徒の育成に努める。【総合】 (3)「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の３つの視点を重視し、互いの良さや可能性を発揮させながら、集団や自己の生活上の課題を解決することができる生徒の資質・能力の育成に努める。【特別活動】
	学	(1)「教えて考えさせる」授業の在り方、「子どもと創る授業」「東光スタイル」等を研修し、生徒が見通しをもち主体的に取り組めるような課題の提示、振り返りの時間の充実等から深い学びの実現に努める。【学習指導】 (2)全国学力学習状況調査、標準学力検査（ＮＲＴ）、中間・期末テスト、学力テスト等の適切な実施と全教職員による採点や改善策の整備の周知など組織的な取り組みを充実させ、学ぶ喜びを実感できる生徒の育成に努める。【学習指導】 (3)評価基準や評価方法の検討し、自己評価や相互評価など多様な評価改善を図りながら、生徒自身が学習内容を自己整理できる力の育成に努める。【学習指導】
	感謝	(1)思いやりの心をもって人と接するとともに、家庭などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることを受け止め、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めることができる生徒の育成に努める。【道徳】 (2)幼児や高齢者との交流、障がいのある子どもたちとの協働学習等を通して、協働することや他者の役に立ったり社会に貢献したりすることの喜びを得られる生徒の育成に努める。【特別活動】 (3)安全な生活態度の形成や避難訓練等の活動を通して、自立した生活を営むことや、共に助け合う力、社会参画の力などの資質・能力を身につけた生徒の育成に努める。【特別活動】
	夢	(1)生徒の活動意欲や努力を認め、主体的に自己の生き方を見つめ、自己の進路を設計・選択・決定し、生涯にわたって自己実現を図っていくことができる資質・能力の育成に努める。【進路指導】 (2)「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」「何が身についたか」「実施するために何が必要か」を組み立て、家庭・地域と連携・協働し、不断の見直しを図りながら個性輝く生徒の育成に努める。【学習指導】 (3)生徒の自発的・自主的な活動を基盤に、共通の目標に向かって互いに認め合い、励まし合い、協力し合い、高め合いながら、自主性、協調性、責任感、連帯感などを身につけた生徒の育成に努める。【部活動】

《方策》
学校教育目標２つの理念と８つの思いを実現するために。
子どもたちの「理想」を育むためには、主にSociety5.0 見据えた教育を充実させる。
子どもたちの「学」を育むためには、主に学習指導を充実させる。
子どもたちの「感謝」を育むためには、主に道徳指導・特別活動を充実させる。
子どもたちの「夢」を育むためには、主に進路指導・学習指導を充実させる。

《絆》２つの理念と８つの思い

絆	貢献	(1)未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、学校内外における体験活動を通し、生命を尊び、自然を大切にするなどの道徳性の育成に努める。【道徳】 (2)身近な環境に繰り返し係る学びから、地域の自然や文化がもつ価値を認識し、愛着心をもち、大切にしようとする生徒の育成に努める。【特別活動】 (3) キャリア教育の充実を図り、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を身に着けた生徒の育成に努める。【キャリア教育】
	命	(1)自分を生かすことの素晴らしさや前向きに生きることの崇高さを身につけ他者の生命をも尊重する態度や逞しい心身をもつ生徒の育成に努める。【道徳】 (2)生涯にわたって健康で安全な生活や健全な食生活を送ることができるよう、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行うことができる生徒の育成。【健康・安全・食】 (3)体験学習や地域人材活用等の充実を図り、心を揺さぶり、心に響き、心情に訴えるなどの教育実践を積み重ね、生命を大切にする心や他人を思いやる心の育成と倫理観や規範意識など社会性を身につけた生徒の育成。【道徳】
	愛	(1)自分の周囲や地域の人々とのかかわりを大切にし、自分の意見をもち、他者の意見を尊重しながら、ともに良好な社会環境づくりを励む生徒の育成に努める。【生徒指導】 (2)一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援を組織的・継続的に行う。また、発達段階を踏まえて、自己理解を深め、自己肯定感を高めながら、得意不得意に変わる意思を表現する力を育み、主体的に学ぶ意欲をもつ生徒の育成に努める。【特別支援】 (3)人間尊重の精神に関わる資料や教材の開発に積極的に取り組み、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解などの課題も含め、深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を持った生徒の育成に努める。【道徳】
	責任	(1)職業や自己の将来に関する学習活動から探究的な学習を柱に、自己を理解し、将来の生き方を考えることができる生徒の育成に努める。【総合】 (2)情報化が急速に進展し、身の回りのものに情報技術が活用されていたり、日々の情報収集や身近な人との情報のやりとり、生活上必要な手続きなど、情報技術が急速に進化していく時代にふさわしい情報モラルを身につけた生徒の育成。【情報教育】 (3)グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力を持つ生徒の育成に努める。【学習指導】

《方策》

学校教育目標２つの理念と８つの思いを実現するために。

子どもたちの「貢献」を育むためには、主に道徳教育・キャリア教育を充実させる。

子どもたちの「命」を育むためには、主に道徳教育・健康安全食の教育を充実させる。

子どもたちの「愛」を育むためには、主に生徒指導・特別支援教育を充実させる。

子どもたちの「責任」を育むためには、主に学習指導・情報教育を充実させる。

４－１、東光中学校経営グランドデザイン①（全体構造図）

グランドデザインとは
「学校の教育理念や果たすべき役割を描いた経営全体構想図」

【法令等】
- 日本国憲法　・教育基本法
- 学校教育法　・学習指導要領
- 北海道教育の基本理念
- 空知管内教育推進の基本方針
- 岩見沢市教育行政執行方針

【教育目標】
「志」　「絆」

《志》→理想・学・感謝・夢
《絆》→貢献・命・責任・愛

【生徒・保護者・地域の実態】
- ○生徒は立派な挨拶をする。
- ○生徒は素直で落ち着いた生活態度である。
- ○生徒は学ぶ意欲や基礎基本の定着に課題がある。
- ○保護者は教育活動への関心は高い。
- ○PTA活動の協力者が課題である。

【めざす生徒の姿】
- ○　人生に目標をもち、やり抜く強い意志を持つことができる生徒
- ○　温かい人間愛と調和のある精神を持つことができる生徒

【経営の理念】
子どもたち一人一人の自己実現や幸福の追求、国家の理想・繁栄の実現を期して頼むべきは、今も教育の力をおいてほかにない。教育は、子どもたちの人格の形成をめざし、未来を担う人間を育成するという崇高な営みである。

【経営の重点目標】
「教えて考えさせる」授業⇒「子どもと創る授業」づくり
「ピア・サポート」⇒支持的・親和的な集団風土の確立
「特別の教科 道徳」⇒豊かな人間性・社会性の育成

《テーマ》
子どもたちを未来につなげる

東光中学校は、公教育としての使命と責任を果たし、ソサエティ(Society)5.0の時代を見据えながら、未来を担う子どもたちに、社会を活きぬく実践力を確実に育成する責務がある。
笑顔に満ち、知・徳・体全てに優れた子どもを育成するため、教職員個々の特性が共通理解の中で力量の向上を図り、組織として機能しながら、家庭・地域と総力をあげて、子どもを自立へと導く教育実践を行うことが重要である。
高い学校力を持つ真の学び舎は、教師自ら教師力を磨き、子どもたちに寄り添い、家庭・地域等からの支援に反映させてこそ実現する。東光中学校の教職員は、情熱と迅速な行動力で組織的に取り組み、子どもの変容で説明責任を果たし、家庭・地域、そして何より子どもたちから信頼を得る特色ある学校づくりを推進する。

【経営の方策２０項目】　《子どもたちを未来につなげる》

(1)学校経営・運営組織の充実	(2)教育課程の充実	(3)学習指導の充実	(4)生活指導の充実
(5)道徳教育の充実	(6)特別活動の充実	(7)ふるさと教育の充実	(8)進路指導の充実
(9)総合的な学習の時間の充実	(10)特別な配慮を必要とする生徒への指導の充実	(11)健康・安全・食に関する指導の充実	(12)情報教育の充実
(13)体験交流教育の充実	(14)部活動の充実	(15)研修の充実	(16)家庭・地域・小学校との連携の充実
(17)「新しい公共」教育の充実	(18)Society5.0を見据えた教育の充実	(19)教科部会の充実	(20)学校事務の充実

「教えて考えさせる」授業⇒「子どもと創る授業」

段階	方針	教材・教示・課題
【教える】		
（予習）	授業の概略と疑問点を明らかに	・通読してわからいところに付箋を貼る ・まとめをつくる／簡単な例題を解く
教師からの説明	教材・教具説明の工夫	・教科書の活用（音読／図表の利用） ・具体物やアニメーションによる提示 ・モデルによる提示 ・ポイント、コツなどの押さえ
	対話的な説明	・生徒代表との対話 ・答えるだけではなくその理由を確認 ・挙手による、賛成者・反対者の確認
【考えさせる】		
理解確認	疑問点の明確化	・教科書やノートに付箋を貼っておく
	生徒自身の説明	・ペアやグループでお互いに説明
	教えあい活動	・わかったという生徒による教示
理解深化	誤りそうな問題	・経験上、生徒の誤解が多い問題 ・間違い発見課題
	応用的・発展的な問題	・より一般的な法則への拡張 ・生徒による問題づくり ・個々の知識・技能を活用した課題
	試行錯誤による技能の獲得	・実技教科でのコツの体得 ・グループでの相互評価やアドバイス
自己評価	理解状態の表現	・「わかったこと」「わからないこと」

「ピア・サポート」

【目標】
(1)自尊感情や自己有用感を育む
(2)支持的・親和的集団風土の確立
(3)学力向上の基盤となる信頼関係に基づく集団づくり
【育成の４領域】
(1)コミュニケーション訓練
(2)自己他者理解
(3)対立解消
(4)サポーター育成
【ビジョン】
(1)全ての話し合い活動が自然に行え、この機能を意図的に活かしながら学力向上の土台となる安定した集団づくりを推進する
(2)教えて考えさせる授業の中で、日常的にこの機能を培った力を活用するように教師の研鑽力に期待する
(3)この機能を活用した授業を年間指導計画に位置付け実践していく

「特別の教科　道徳」

【教科の目標】
中学校学習指導要領第１章総則の第１の２の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
【内容項目】
(1)主として自分自身に関すること
(2)主として人との関わりに関すること
(3)主として集団や社会との関わりに関すること
(4)主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
【考え、議論する道徳授業】
自分との関わりで多様な考え・感じ方と交流し成長を実感させる。

新学習指導要領に向けて

社会に開かれた教育課程	主体的・対話的で深い学び	観点別学習評価
①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。 ②これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。 ③教育課程の実施にあたって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、そのめざすところを社会と共有・連携しながら実施させること。	◎３つの視点に立った授業改善 ①学ぶことに興味・関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習内容を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ②子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。 ③習得・活用・探究という学びの課程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。	①【「知識・技能」の評価の方法】 従前、評価の観点である「知識・理解」「技能」において重視してきた。具体的な評価方法としては、例えばペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る等が考えられる。また、生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことが考えられる。 ②【「思考・判断・表現」の評価方法】 従前、評価の観点である「思考・判断・表現」において重視してきた。具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられる。 ③【主体的に学習に取り組む態度】の評価 具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることが考えられる。その際、各教科等の特質に応じて、生徒の発達段階や一人一人の個性を十分に配慮しながら、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえたうえで、評価を行う必要がある。

４－２、学校経営グランドデザイン②（アクション・プラン　働き方改革）

ねらい	(1)教員が授業や授業準備に集中し、健康でいきいきとやりがいをもって勤務しながら、学校「教育の質を高められる環境」整備を図る。 (2)教員一人一人が十分に、授業準備の時間や研修の時間、心身の疲労を回復させる時間を確保できるような取り組みを図る。 (3)職員一人一人がワークライフバランス(仕事と生活の調和)の視点を積極的に取り入れ、意識改革を図る。
目　標	(1)在校等時間から規定で定める勤務時間等を減じた時間が１か月で４５時間、１年間で３６０時間を超える教員をゼロにする。 (2)部活動休養日を平日１日、土日１回以上を実施　(3)変形労働時間制の活用 (4)定時退勤日を月２回以上実施　(5)学校閉庁日を年９日以上実施
取　組	**Ａｃｔｉｏｎ１《教職員が本来担うべき業務に専念できる環境の整備》** (1)学校課題に応じた専門スタッフ等の配置促進(ＳＣ、ＳＳＷ等の配置) (2)ＩＣＴを活用した授業改善や教材の活用(ＰＣ、プロジェクター等を有効活用した授業づくり) (3)校務支援システムの導入促進(導入に向けての検討開始) (4)地域との協働による学校を応援・支援する体制づくり(コミュニティ・スクールの導入)
	Ａｃｔｉｏｎ２《部活動に係る負担の軽減》 (1)部活動の休養日等の設定 ｱ)休養日は、週あたり２日以上とする(平日は１日以上、週末(土・日)は１日以上とする) ｲ)１日の活動時間は、平日は長くても２時間程度、週末(土・日)は３時間程度とする (2)特定の教職員に負担が偏ることがないよう、可能な限り複数顧問の配置とする
	Ａｃｔｉｏｎ３《勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実》 (1)ワークライフバランスを意識した働き方の推進(月２回以上の定時退勤日の設定) (2)人事評価制度等を活用した意識改革の推進 ｱ)マネジメントに関する目標の設定 ｲ)人事評価の面談時に、管理職員が職員と業務改善に向けた意識の共有 (2)長期休業期間中における「学校閉庁日」の設定 ｱ)夏季休業期間　８月１５日前後の特定の３日間(学校の実情に応じての設定可)(部活動休養日とする) ｲ)冬季休業期間　１２月２９日から１月３日までの６日間 (3)勤務時間を客観的に把握し、集計するシステムの構築(具体的なシステムは検討中) (4)留守番電話等による連絡対応等(取組の検討開始) (5)保護者や地域住民への理解促進
	Ａｃｔｉｏｎ４《教育委員会による学校サポート体制の充実》 (1)調査業務等の見直し(提出期間を十分に確保し一定期間に集中させない) (2)勤務時間に関する制度の有効活用(変容労働時間制、週休日の振替に係る勤務時間スライド) (3)適正な勤務時間の設定 (4)教育課程の編成・実施に関する指導助言(授業時数の適正な計画) (5)トラブル等に直面した際のサポート体制の構築(関係機関との連携・協力体制の強化) (6)メンタルヘルス対策の推進(ストレスチェック等) (7)学校行事の精選・見直し

４－３、学校経営グランドデザイン③（育成させる資質・能力）

《何ができるようになるか》（学校教育の基本）

(1)学習したことや体験したことを活かして、主体的に学び続けることができる
(2)互いの価値観を認め合い、支え合いながら行動し、自己表現することができる
(3)その場の状況に適した対応をし、課題解決をすることができる

⇔

《何が身に付いたか》（学習評価を通じた学習指導の改善）

(1)事前に学習したことや体験したこととの現在の学習活動等とを比べたり繋げたりしている
(2)友人の考えを認め合い、協働的に行動し的確に自己表現ができる
(3)相違点や類似点を理解し、どこを活かすかがわかっている

⇕

《子どもの発達をどのように支援するか》（配慮を必要とする子どもへの指導）

子ども一人一人の多様な能力・適正、興味・関心、性格等を適切に捉え、発達を支援していくとともに、生徒指導と学習指導とを関連付けながら、一層の充実を図る。具体として、(1)「子どもの心身の発達の段階や特性」、(2)「教科における生徒指導」、(3)「支持的風土のある学級集団づくり」の３観点の調和。

《何を学ぶか》（教育課程の編成）

(1)課題発見能力と課題解決能力の育成を図る（日常の授業改善）
(2)コミュニケーションスキルを身につける
(3)各教科で身につけた力を表現活動等で活用する

⇔

《どのように学ぶか》（教育課程の実施）

(1)「教えて考えさせる」授業の充実を図る（教師説明・理解確認・理解深化・自己評価）を統一したスタイルの授業
(2)ピアサポートの機能を活用した表現活動
(3)学年間や教科領域間のつながりを踏まえた活動計画

⇧　⇧

《実施するために何が必要か》（指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働）

(1)確かな学力の定着に向けた授業改善
ｱ)「教えて考えさせる」授業の実践研究による授業改善
ｲ)外部講師による道徳指導の継続
ｳ)ピアサポートの継続
ｴ)学習習慣の形成
(2)地域との調整、情報の共有
ｱ)東光校区連携協議会のさらなる充実
ｲ)３校をつなぐ会のより一層の充実・連携
ｳ)「15の春に責任をもつ」ロードマップの推進
ｴ)岩小・東小、幼稚園、高校、民生児童委員、市教委等との連携
ｵ)地域と連携したキャリア教育の実施

(3)生徒支援のための充実した連携
ｱ)生徒一人一人の教育的ニーズの把握
ｲ)支援部中心に情報を共有し協働体制を図る
ｳ)特別支援員や市教委による学習支援の派遣
ｴ)大学との連携
(4)学年目標の設定
ｱ)１学年・・・「いい顔で過ごそう！」
ｲ)２学年・・・「存在感のある生徒になろう！」
ｳ)３学年・・・「感謝の思いで生活しよう！」

４－４、学校経営グランドデザイン④（方策）

☆子どもたちを未来につなげる☆

《1》 学校経営・ 運営組織の充実	学校は、今を生きる子どもたちにとって、未来に向けた準備段階としての場であると同時に、現実の社会とのかかわりの中で、毎日の生活を築き上げていく場である。そのことを踏まえて、教職員一人一人の教育活動がそれぞれの役割として協働体制の中で推進しながら、教育目標の達成に向けて組織として推進していく。また、全教職員がいきいきとやりがいをもって勤務しながら、教育の質を高められる環境の整備を図る。
《2》 教育課程の充実 (カリキュラム・マネジメント)	教育課程とは、「学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子どもの心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画」である。新学習指導要領に基づき、全教職員で課題の背景を把握し、目的、ビジョンを共有しながら調和のとれた適正な教育課程の実現を図り、全教職員が参画する特色ある学校の創造に努める。
《3》 学習指導の充実	「主体的・対話的で深い学び」を通して、人間の生涯にわたって続く「学び」の本質をとらえ、教えることにしっかりと関わり、子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、日常授業の工夫・改善に努める。また、「教える場面」と「考えさせる場面」、「子どもたちに思考・判断・表現させる場面」を効果的に設定し、「教えて考えさせる」授業の充実から「子どもと創る授業」づくりに努める。
《4》 生活指導の充実	「１５の春を見越した生徒指導」を基盤に子どもたち一人一人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、自己を確立させるように支援するなどの生徒理解を基本に、教職員が一体となった共通理解のもと、基本的な生活習慣の徹底と思いやりや感謝の心を育む積極的な生徒指導に努める。 【学校や地域の実情や昨今の少年を取り巻く環境を配慮した非行防止教室の実施】 ①特殊詐欺への関与の防止②薬物乱用防止教室（大麻・覚せい剤等） ③犯罪被害④性被害⑤飲酒・喫煙の防止　等
《5》 道徳教育の充実	「よりよく生きるための基盤」となる道徳性を養うため、道徳的諸価値を自分の事として理解し、物事を広い視野から多面的・多角的に人間としての生き方について深く考え、議論する道徳教育等を深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度などの育成に努める。また、「考え、議論する道徳授業」から自分との関わりで多様な考え・感じ方と交流させながら子どもたちの成長を図る。
《6》 特別活動の充実	集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の資質・能力の育成を図るとともに、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養など、学校の成果と課題を意識した教育課程の充実を図る。また、「東光スタイル」の計画整備と実践の検証を図る。
《7》 ふるさと教育の充実 （社会貢献）	地域の教育資源（人材、施設、歴史・文化）を活用した教育活動を通じて、子どもたちに社会の一員としての自覚を持たせ、社会性を育む。また、子どもたちに地域課題に正対させることで、ふるさとへの貢献意欲の向上を図る。地域貢献活動（除雪ボランティア、クリーン・グリーン作戦、募金活動など）
《8》 進路学習の充実	生徒が自分自身を見つめ、自分と社会のかかわりを考え、将来、様々な生き方や進路の選択可能性があることを適切な指導・支援から、自らの意志と責任で自己の生き方、進路を選択することができる資質・能力の育成に努める。また、学力テスト終了後に全学年で進路希望調査を行い子どもたちの意欲向上に繋げる。
《9》 総合的な学習の時間の充実	課題を探究する見方・考え方などの実践から、各教科等で育むねらいを横断的・総合的に関連付け、実生活・実社会で活用できることを重視しながら、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成に努める。
《１０》 特別な支援を必要とする 生徒への指導の充実	子どもたちの自立と社会参加を一層推進していくため、通常学級、特別支援学級、通級に指導において、十分な学びを確保し、一人一人の子どもの障がいの状態や発達段階に応じた指導や支援の一層の充実を図る。
《１１》 健康・安全・食に 関する指導の充実	健康で安全な生活を送ることができるようにするとともに、生涯にわたって、健康で安全な食生活を送るために必要な資質・能力を育み、安全で安心な社会づくりに貢献することができる資質・能力の育成に努める。
《１２》 情報教育の充実 (情報技術)	世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていく「情報活用能力」の育成に努める。

《１３》 体験交流教育の充実	体験活動は人づくりの原点であることから、未来の社会を担う子どもたちに、人間的な成長に不可欠な体験の機会を教育活動の一環として意図的・計画的に設定するようにに努める。また、将来、社会や職業で必要となる資質・能力を育むため、学校で学ぶことと社会とのかかわりを意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる教育の充実を図る。 ①キャリア教育(職場体験)　②アイヌ文化事業 ③旅行的行事における自主研修の充実 ④岩教大との連携　⑤伝統・文化・歴史などに関る取組
《１４》 部活動の充実	子どもたちの生活の場を地域社会に広げ、幅広い視野に立って自らのキャリア形成を考える機会となることが部活動に対して期待されていることを踏まえ、子どもたちの自主的・自発的な参加を基盤として、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感・連帯感の涵養等を図る。
《１５》 研修の充実 「日常授業の改善」	「主体的・対話的で深い学び」を図るため「教えて考えさせる」授業の確立・推進や外部講師による継続指導、研究内容や研究方法の一層の充実を図るとともに、授業を校内外に積極的に公開するなど、日常の授業改善に高みがある研修活動に努める。 また、研究機関・団体等、小中連携合同研修会の実施など、計画的・継続的に推進し、成果・課題の交流を図るなど、全教職員で研修の推進に努める。
《１６》 家庭・地域・小学校との連携の充実 「コミュニティーエリアの構築」	家庭・地域の信頼に応え、学校の自主性・自立性を重んじた特色ある教育活動による開かれた学校教育を推進するため、生徒が家庭・地域に見える教育活動を進めるとともに情報の収集・提供に積極的に努める。また、「子育てのビジョン」の共有を図る。 東光中学校区連携協議会を主体としながら９年間を見通した生徒指導・学習指導の系統的指導である「１５の春に責任をもつ」、「家庭生活のめあて」、「３校生活のきまりと約束」、「生徒指導の基本的な考え方」等の指導の徹底を図る。 また、３校つなぐ会を主体として、「教えて考えさせる」授業を基盤とした「子どもと創る授業」など、３校の教師が課題や成果を把握し、実践・検証することで子どもたちの「学びに向かう力」の育成に努める。
《１７》 「新しい公共」教育の充実	学校教育や社会教育を通じた担い手の育成や、学習活動の場の提供・確保、学校と家庭・地域の情報の共有など、各分野の共同を図り、「支え合いと活力のある教育活動」の充実に努める。
《１８》 ソサエティ5.0を見据えた教育の充実 (Society5.0の時代)	（１）共通して求められる力 ①文章や情報を正確に読み解き対話する力、 ②科学的に思考・吟味し活用する力、 ③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力。 （２）新たな社会を牽引する人材 ①技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材、 ②技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造する人材、 ③様々な分野においてＡＩやデータの力を最大限活用し発展できる人材。 (1)(2)を整理・深化しながらこれから求められる人材の育成を図る。
《１９》 教科部会の充実	①教師同士が教科指導の改善を図ることで、子どもたち自身が自らの学習を振り返り「どういった力が身に付いたか」を自覚し、次に向かうことができる学習スキルの向上に努める。 ②定期テストの点検・改善を図り、適切な学習課題としての在り方となっているか確認する。 ③教科ミニ研修を定期的に実施し、「学びの継続性」を重視する組織体となるよう努める。 ④未履修を点検・確認する部会を行う。 ⑤課題に対してスピード感ある対応ができる部会をめざす。
《２０》 学校事務の充実	教育予算、学年・学校会計の適正な執行と迅速な学校事務処理に努めるとともに、施設・設備・備品等の整備と適切な管理を行う。また、公文書・個人情報等の管理を定期的に点検・整備し、有効な活用を図る。
学年目標（テーマ）	１学年　いい顔で過ごそう！
	２学年　存在感のある生徒になろう！
	３学年　感謝の思いで生活しよう！

令和３年度　東光中学校　校内研修推進計画について

１．（１）研究主題

「豊かに学び、学びを活かす生徒の育成」

～生徒が主役となって学ぶ子どもと創る授業を通して～

（２）　研究主題の設定理由

今年度から完全実施される新学習指導要領では、予測困難な時代にあっても、未来の造り手となるために必要な資質・能力を確実に子供たちに育むことが必要とされている。そのためには、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱をそれぞれバランスよくふくらませながら子供たちの学習過程に組み込んでいくことが大切である。

本校ではこれまで、授業を通して子供たちの「確かな学力」（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）の育成を目指し、三つの柱をそれぞれバランスよく育てるための手立てとして主体的・対話的で深い学びの研究を進め、さらに、教えて考えさせる授業をモデルに、各授業で教える時間（知識・技能の指導）と子供たちが主体的に考え学び合う時間（知識・技能をもとに思考・判断・表現する、知識・技能のさらなる定着と向上）をバランスよくとることで「確かな学力」が身につくことをねらいとしてきた。

授業スタイルが確立され、どの授業でも同じように学び、思考する生徒達を見られるようになった。しかし、様々な学びの場面を意図しながらバランス良く施しても力の定着にまで至らない、こちらの理想とする姿にまで到達しないという現実もある。私たちの理想や社会の状況等を踏まえ、これからの社会で様々な困難や課題に直面するであろう子どもたちが、自ら幸福な人生を切り拓くことができるようになるためには、より主体的な学びになることや、学びを連続させたり関係させたりしながら仲間と協働して結果的に自己解決していく力を身につけることなどが考えられる。

そこで今年度は、昨年度の「豊かに学ぶ生徒」からさらに、そこで得た資質・能力や課題解決した経験などをその教科の他の問いや単元、他の教科や総合学習、道徳、学校生活に学びを広げ、学んだ“知識・技能”や“思考・判断・表現”したものを定着させられることを目標に研究テーマを「豊かに学び、学びを活かす生徒の育成」とした。また、岩見沢市で掲げる、教えて考えさせる授業を基盤とした“子どもと創る授業”を実践することで確実に研究テーマの達成につながると考える。

ピア・サポートの研究も引き続き行い、主体的・対話的で深い学びを実現するための学級風土の醸成を目指すこととする。

◆「豊かに学ぶ生徒」とは◆

「豊かに学ぶ生徒」

目的や課題に応じて、様々な資質・能力を発揮し、課題解決に向かう生徒。

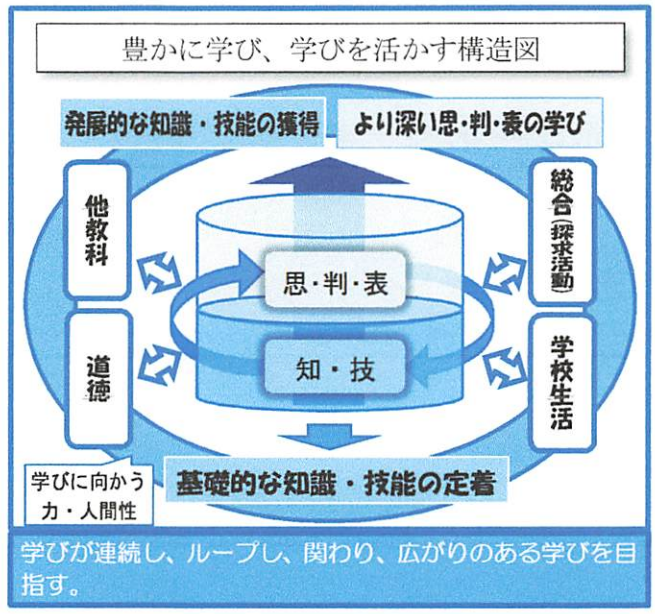
◆「学びを活かす生徒」とは◆

「学びを活かす生徒」

学び得たものを確実に自分のものにする。その上で、他の問いや他の単元に、さらには他の教科や総合学習、道徳、学校生活に活用したり有効に使ったりできる生徒。

（3）　豊かに学び、学びを活かす構造

生徒は目的や課題、問いに応じて、様々な資質・能力を発揮し、課題解決に向かう。当然、授業の中でそのような課題などを教師側が与えると共に、資質・能力の発揮の連続性を持たせることが重要である。本校の授業スタイルでは、説明の場面で必要な「知識・技能」を身につけさせ、その「知識・技能」を駆使して整理や深化の場面で答えの無い問いやより難易度の高い問いに対する中で「思考力・判断力・表現力」を高めたり、「知識・技能」のより確実な定着につながったりすると考えている。しかし、実際の学習場面ではその逆も然りで、「知識・技能」を獲得するために思考・判断・表現することもある。必ずどちらかが前段に来るということではなく、授業スタイルを基盤に子ども達の学びを連続(ループ)させ、常に脳を駆動し続けさせたい。さらには、その中でICTを効果的に活用し、子ども達の思考を助け、より円滑な学びの時間を作り出す。それらで学んだものが他の単元や他教科、学校生活などに活用されたり、似たような問いに有効に使ったりできるようになると本当に意味で必要な学びを得て、必要な学力を身につけた生徒と言えると考える。



（4）　研究仮説について

課題設定やまとめ、振り返りの場面で生徒が主体となって取り組み、さらに、教師側から質の良い深化問題を与えることで学びが深まることはもちろん、学びの連続性や広がりが生まれ、豊かに学び、学びを活かす生徒の育成につながるだろう。

（5）　研究内容について（明確な指導観を持つための視点）　※１年次特設

①　子どもと創る授業

ア　深化問題の質を高めることで、同時に問いを解決する中で様々な力を高める。

イ　深化の時間の思考の見取り方を考え、評価につなげると共にねらいに迫る。

ウ　課題設定やまとめ、振り返りを生徒が主体的に行ったり、生徒と共に作り上げたりする。

②　ＩＣＴの活用

ア　整理・深化の時間に様々な考え方に触れさせたり、自分の考えを効果的に伝えさせたりする。

イ　テストや活動撮影で改善点を見つけたり定着度を確認したり、振り返りに活用する。

ウ　主体的・探求的な学習の場面で調べ学習などに使い、課題解決に役立てる。

③　ピア・サポート

ア　「傾聴・受容・共感」を土台とした、生徒が自分の考えを堂々と伝えるスキルを身につけさせる。

イ　全ての話し合い活動が自然に行え、学力向上の土台となる安定した集団づくりを推進する。

2．研究の全体構造図

〈学校の教育目標〉

「志」　「絆」

《志》→理想・学・感謝・夢

《絆》→貢献・命・責任・愛

〈研究主題〉

「豊かに学び、学びを活かす生徒の育成」

～生徒が主役となって学ぶ子どもと創る授業を通して～

〈めざす生徒の姿〉

○人生に目標をもち、やり抜く強い意志を持つことができる生徒

○温かい人間愛と調和のある精神を持つことができる生徒

〈研究仮説〉

課題設定やまとめ、振り返りの場面で生徒が主体となって取り組み、さらに、教師側から質の良い深化問題を与えることで学びが深まることはもちろん、学びの連続性や広がりが生まれ、豊かに学び、学びを活かす生徒の育成につながるだろう。

〈研究内容〉明確な指導観をもつための視点

（１）子どもと創る授業

・深化問題の質を高めることで、同時に問いを解決する中で様々な力を高める。

・深化の時間の思考の見取り方を考え、評価につなげる共にねらいに迫る。

・課題設定やまとめ、振り返りを生徒が主体的に行ったり、生徒共に作り上げたりする。

（２）ＩＣＴの活用

・整理・深化の時間に様々な考え方に触れさせたり、自分の考えを効果的に伝えたりする。

・テストや活動撮影で改善点を見つけたり定着度を確認したり、振り返りに活用する。

・主体的・探求的な学習の場面で調べ学習などに使い、課題解決に役立てる。

（３）ピア・サポート

・「傾聴・受容・共感」を土台とした、生徒が自分の考えを堂々と伝えるスキルを身につけさせる。

・全ての話し合い活動が自然に行え、学力向上の土台となる安定した集団づくりを推進する。

研究の進め方と評価

①今年度の研究について理論研修を行い、共通理解を図ったうえで推進する。

②全体研修、教科部会研修の時間を確保しながら進めていく。

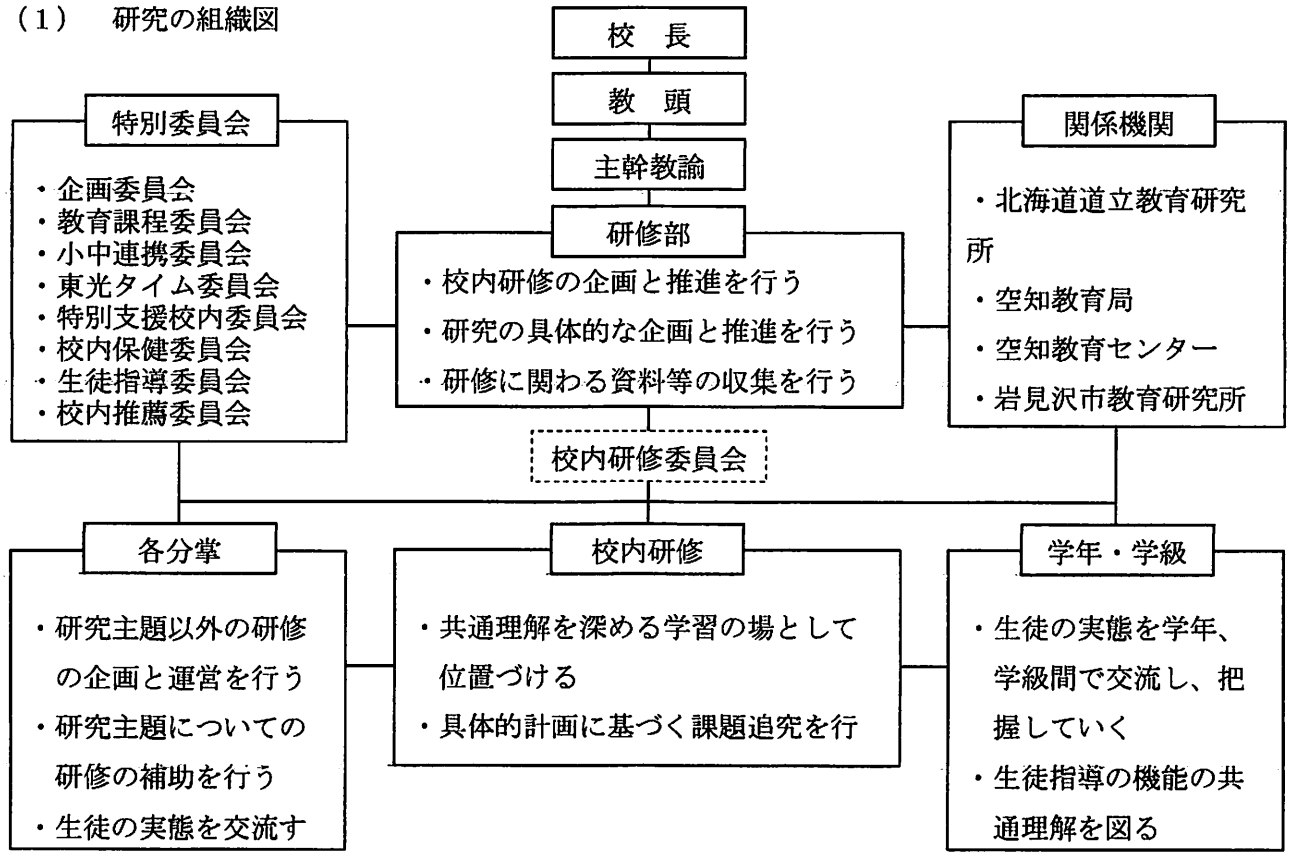
③授業実践、反省、改善を繰り返し、全教職員で授業スタイルの確立に努める。

④公開研究会で実践発表し、多くの意見をいただき、評価・改善する。

⑤成果と課題を明らかにし、研究のまとめとする。（部会と全体の反省）

3．研究の推進計画

（1）　研究の組織図



（2）令和３年度　研修計画表

回	実施時期	研　修　内　容		運営
		研究主題に関わって	その他の研修	
1	4月5日(金)	今年度の研修について （研修主題・仮説、研修内容、研修計画）（授業について）（ピア・サポート）		研修部
			・生徒指導交流会	指導部
	4/12～16	教科部会（授業参観週間）		
2	5月17日(月)	理論研修（今年度の研修について）、指導案	（・今年度の評価評定）	研修部・教務部
3	5月31日(月)		・生徒指導交流会	指導部
4	6月3日(木)	研究授業（研修部が中心となって授業を行う） 研究協議　　※全体		研修部
	6/28～7/2	教科部会（授業参観週間）		
5	10月4日(月)		・特別支援教育に関わる研修	支援部
	10/4～8	教科部会（授業参観週間）		
6	10月〇日(〇)	研究授業（訪問日に合わせて実施）　研究協議	・授業改善についての研修	研修部
7	11月2日(月)	公開研究授業（公開授業数等は後日提案） 研究討議		研修部
8	11月5日(金)		・生徒指導交流会	指導部
	12/20～23	教科部会（授業参観週間）		
9	2月14日(月)	今年度の反省・来年度の方向性 ※来年度については新年度計画会議で説明	・授業改善についての研修	研修部

本校の授業スタイルについて《授業開始にあたって》

1．授業スタイル

（1）基本的な５つの時間

・課題、説明、整理、深化、振り返りの時間からなる。

→各教室にマグネットがあるのでそれを利用する。

（2）５つの時間について

① 課題の時間

●課題の提示に関わって

→　生徒が解決のために考える必然性や必要感のあるものや身に付ける資質・能力を示す。

ア．授業の目標やゴール、内容を理解できるもの。

イ．学習への興味・関心や問題意識を高めることができるもの。

ウ．主体的に学ぼうとする意欲を育むことにつながるもの。

エ．学習の見通しをもつことができるもの。

＜「課題」の表記に関わって＞

1．その日のゴールを明確化する

提示の例）　「 前方倒立回転ができる 」

「 前方倒立回転の構造について説明することができる 」

「 ○○ができる 」「 ○○られる 」と言った提示を基本とする

2．「課題」が目標・評価と一体化している（目標の数に合わせて課題が二段構えになることも）

提示の例）「オリジナルダンスを作り、それを曲に合わせて踊ることができる。」

「思考・判断の課題」　　「技能の課題」

＜「課題」をつくる上での考え方（「課題」の時間のあり方）＞

1．その日の授業が知識・技能の習得を目指す授業であるなら

→ ア．授業の目標やゴール、内容を理解できるもの
エ．学習の見通しを持つことができるもの

⇒振り返りの時にわかった・わからなかった、できた・できなかったが見取りやすいように

2．その日の授業が思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性を高めるための授業であるなら

→ イ．学習への興味・関心や問題意識を高めることができるもの
ウ．主体的に学ぼうとする意欲を育むことにつながるもの

⇒生徒がワクワクし、問題意識を持って取り組めるような課題や課題提示の方法を。

例：実物を見せる、動画(実際の映像)を見せる、クイズ・問いかけを入れる　など

➡深化の時間(ペア・グループ学習)が活発になり、主体的・対話的で深い学びに近づく！

② 説明の時間

→　教師による説明は短時間を意識。そのためにも教材研究をしっかり行い、コンパクトでわかりやすく説明する。

ア．教えるべきことはしっかり教える。⇒知識・技能が無いと次の学習活動につながらない。

イ．教材・教具・説明の工夫

具体物やアニメーション、映像による提示／モデルによる演示／例えや例を使って説明／操作活動をとり入れる／ポイント・コツの提示

ウ．誰でも答えられる問いを重ねて対話的に説明する。（市川理論）

→答えられない状況を作らない

エ．生徒が教師の説明をどれだけ理解したのかを診断・把握する。

③ 整理の時間

→ 課題に正対するまとめを示す。習得すべき内容についてペアやグループで教え合うなど、生徒が自分の理解や技能の体得を確認するための場面。

ア．自力解決の時間を確保する。

イ．自分の考えや答えを互いに伝え合う。

ウ．自分の考えを説明して自分自身の理解を深める。

エ．自分の考えを相手に伝える工夫をして、自分自身の理解を深めたり、友達の考えを生かしたりする。

個人学習 ⇒ ペア学習・（グループ） ⇨ 全体

整理(理解確認)の時間は、個人の後は基本ペア学習とし、自分の考えや答えを言語化してアウトプットさせる。

理想としては

教師からの解き方の確認やまとめの提示が中心にならず、個人思考したことやペア学習したことを教師が引き出し、つなげて「一緒に解いた」「子ども達の言葉がまとめになった」となるように持っていく。

④ 深化の時間

→ 教えられたことを基に、活用・発展問題、試行錯誤で身につく技能など、生徒が自分の考えをもち、ペアやグループで共同して解決する場面。

⇒ 思考や知識などが深まりのあるものになったり、グループで話し合うことこそ必要であると感じたりできるような学習にするための深化問題をこちらから提示していくことが重要。

●深化問題作成に視点（生徒が向き合いたくなるような問い）

ア．みんなで力を合わせたり頑張れば解けそうなレベルの問い

イ．多様な考えに触れられ深まりが出る問い

ウ．自分ごととしてとらえられるような問い

エ．問題意識を強く持つことできるような問い

オ．多面的・多角的に考えさせられる問い

カ．体験的なものや試し合う中で達成できる問いや課題（ロールプレイ含む）

キ．みんなで協働してコツなどを発見する問い

ク．学んだことを生かして制作する問いや課題

個人学習 ⇒ （ペア）・グループ学習 ⇒ 個人思考 ⇨ 全体

個人の後はグループ学習を入れて様々な考え方に触れ、理解や思考の深化・定着を図る時間にする。そのためにも、グループ学習後に個人の時間を設け最終的な自分自身の答えや考えを確認させる。

→「なるほど」「そうだったのか」を引き出す。

Ｒ３年度　岩見沢市立東光中学校　総合的な学習の時間　学習計画（案）

	１学年　（５０時間）		２学年（７０時間）		３学年（７０時間）	
地域を探究し 共生を考える	ふるさと学習～炭鉄港～ 市民憲章 フォトコンテスト	15	SDGs×岩見沢駅前地区の活性化探究	15	修学旅行 フォトコンテスト	28 (-8)
			宿泊学習 フォトコンテスト	19 (-5)	SDGs×地域活性化×未来の職業 地域イベント・地域ブランド商品の創造 未来の職業探究（商品開発）	12
職業を探究し 共生を考える	SDGS×日常生活の探究	10	未来の職業探究	12		
					進路の探究 マナー講習など	7
文化活動を探究し 共生を考える	学校祭個人種目 ちぎり絵・縁日・演劇・学校製作	10 (-4)	学校祭個人種目 ちぎり絵・縁日・演劇・学校製作	10 (-4)	学校祭個人種目 ちぎり絵・縁日・演劇・学校製作	10 (-4)
ピア・サポート	各学級でのピア・サポート体験	5	各学級でのピア・サポート体験	4	各学級でのピア・サポート体験	3
		50		70		70

＊学校祭の内容縮小のため、１０時間分を『Social Change』に移行

来年度案作成にあたって
①旅行的行事の準備やまとめに当てていた時間を減らすことで、時間を生み出した。
②学校祭の準備時間は各学年２０時間とし削減した。
③宿泊、修学旅行での探究活動は行わないと共通理解し、事前事後の活動を含めて簡素化する。
④学校祭の個人種目の内容を更に見直せば総合を正しく学習できると感じる。
⑤２学年の職業体験を実施しないという案です。

※その他の学習案

マイノリティーを探究する
パラスポーツ&ゆるスポーツの創造

令和３年度　学校運営に関するアンケート（学校評価）　資料

岩見沢市立東光中学校

結果分析及び今後に向けての方策について

保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に特段のご理解・ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

さて、１１月に実施しました今年度の「学校運営に関するアンケート」の結果分析と今後に向けての方策がまとまりましたので、ご報告いたします。皆様からいただきました貴重なご意見を踏まえた上で、本校の成果と課題を洗い出すとともに、学校課題に対して工夫・改善を図ってまいります。今後も生徒のためのより充実した教育活動が展開出来るように職員一丸となって『チーム東光』で取り組む覚悟です。

つきましては保護者の皆様の変わらぬご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和4年1月　　校　長　庄　司　直　樹

【学　校　経　営　方　針】

【教育目標】

志～理想・学・感謝・夢
絆～貢献・命・責任・愛

【今年度の経営の重点】

Ⅰ.『「教えて考えさせる」授業』の充実
Ⅱ.『ピア・サポート』の充実
Ⅲ.『特別の教科　道徳』の充実

【本校のめざす生徒像】

Ⅰ.人生に目標をもち、やり抜く強い意志を持つことができる生徒
Ⅱ.温かい人間愛と調和のある精神をもつことができる生徒

《アンケート集計結果　回収率》

	生　徒	保護者	教職員
１年生	95.1%	90.2%	
２年生	91.5%	83.0%	
３年生	96.8%	85.5%	
全　体	94.5% (前年比-0.4)	86.1% (前年比-4.6)	100.0% (前年比±0.0)

東光中学校　学校運営に関する「生徒・保護者・教職員」アンケート

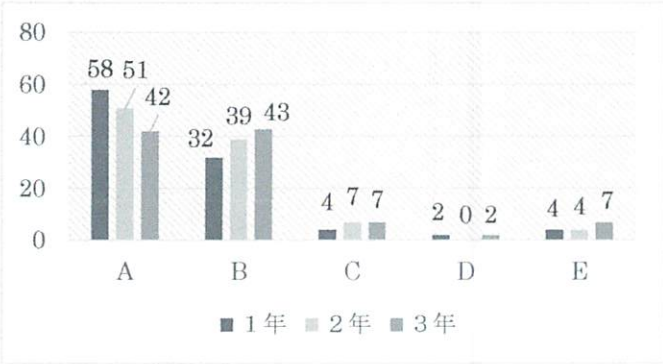
A：とてもそう思う　B：どちらかというとそう思う　C：どちらかというとそう思わない
D：思わない　E：わからない・無回答

＊グラフの表記上、小数点以下を四捨五入してますので、項目によっては１００％になっていない場合がございます。

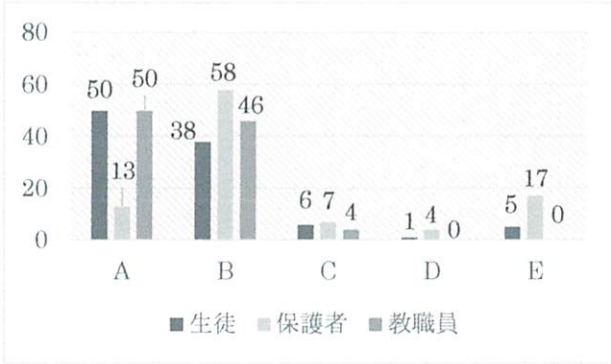
【学習面】

（1）学校は生徒が意欲的に学ぶための工夫・改善をし、学びに向かう力を育成していると思いますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



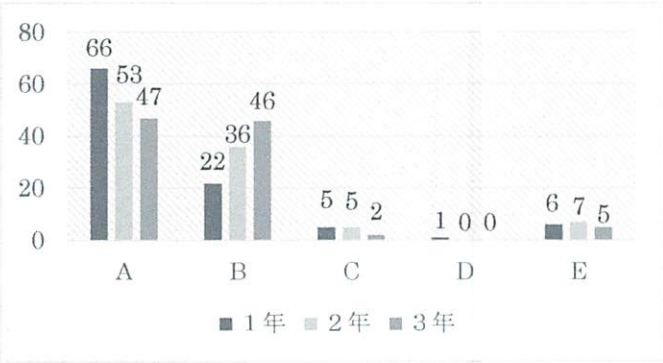
肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	８８．０％	＋５．８％
保護者	７１．７％	＋２．９％
教職員	９５．８％	＋１．１％

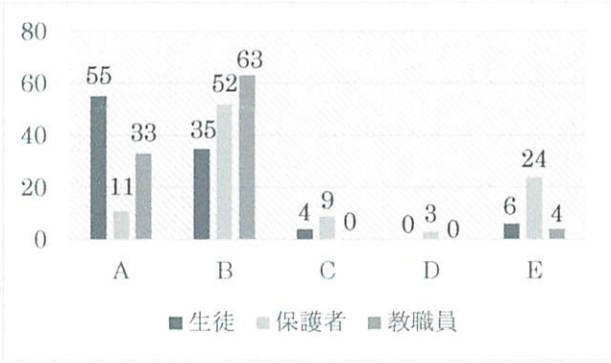
【分析】
生徒及び保護者から満足できる評価をいただきましたが、本設問項目は学校の教育活動の根幹であり、現状の数値に満足せず全ての教職員が今後も授業改善を進めてまいります。

（2）学校は基礎的な知識や技能の定着に向けて、見通しの持てる分かりやすい授業づくりに努めていると思いますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



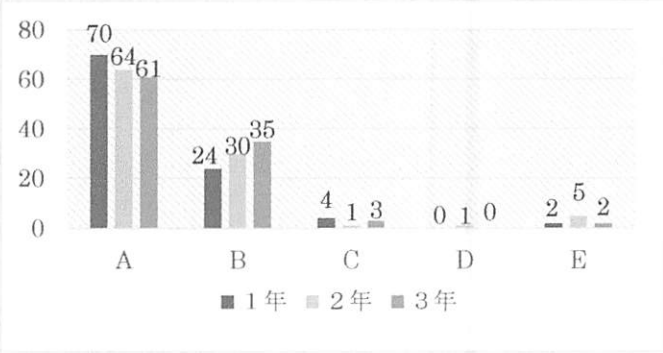
肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	９０．１％	＋４．６％
保護者	６３．５％	－１．６％
教職員	９５．８％	＋１．１％

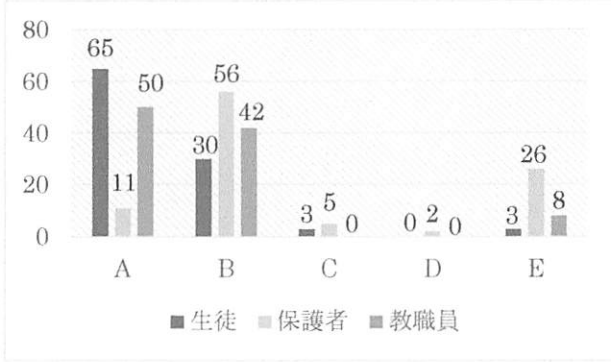
【分析】
生徒の評価では概ね満足できる数値でありますが、保護者の期待に応える数値（７０％以上）には、まだ達していないと捉え、さらに授業改善を図ってまいります。

（3）学校は、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをもとにして答えをまとめたりする授業（深化問題の充実）に努めていると思いますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



肯定的な評価（ABの合計）

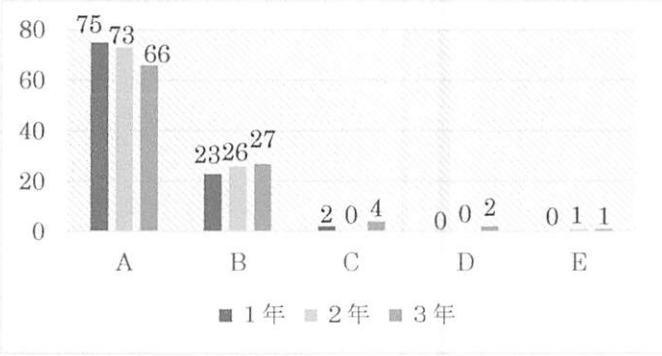
	ABの合計	前年度比
生　徒	94．1%	
保護者	67．3%	
教職員	91．7%	

＊新たに設定した設問項目のため前年度比はありません。

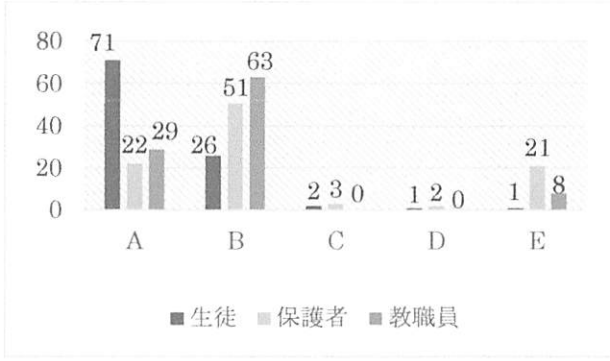
【分析】
新学習指導要領において求められている「主体的・対話的で深い学び」を具体化した設問項目であり、生徒の評価は概ね満足できる結果となっておりますが、今後は保護者の期待に応える数値（70%以上）を目指して授業改善を図ってまいります。

（4）授業の中で学習したことを基に自分で考えたり、仲間と考えを深めて発表する場面がありますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



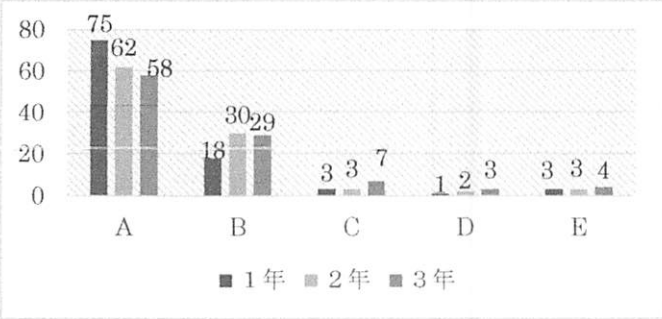
肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	96．8%	＋1．3%
保護者	73．8%	＋5．0%
教職員	91．7%	＋2．2%

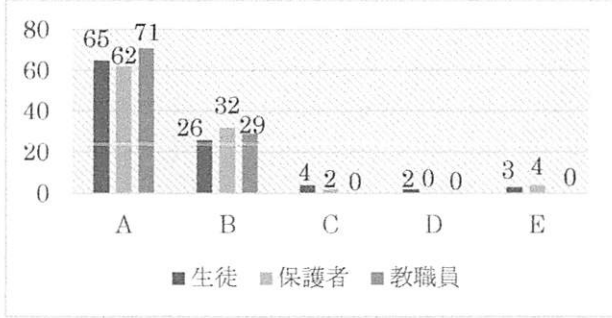
【分析】
設問（3）同様、新学習指導要領において求められている「主体的・対話的で深い学び」を具体化した設問項目であり、生徒及び保護者のご理解をいただいていると判断しましたが、現状に満足せずさらに質的改善を図ってまいります。

（5）授業中にグループで話し合ったり、みんなの前で意見を発表する機会があることは良いことだと思いますか

①生徒



②保護者・生徒・教職員



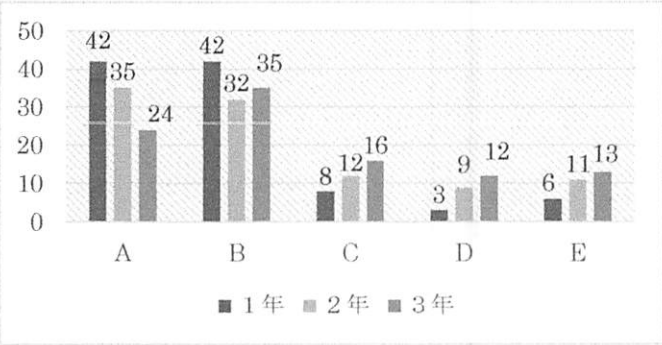
肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	90．7%	−0．9%
保護者	94．2%	+2．0%
教職員	100%	+5．2%

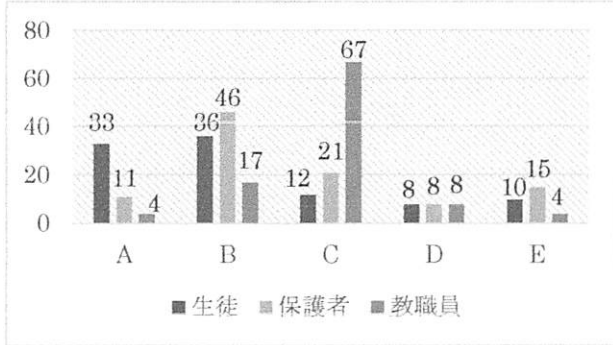
【分析】
ペアやグループでの学習活動（協働的な学び）と個に応じた学習活動（個別最適な学び）が授業において求められており、生徒及び保護者のご理解をいただいていると判断いたしましたが、この結果に満足することなく今後も授業改善を図ってまいります。

（6） 学校は、家庭学習の習慣が身に付くように、また長期休業や放課後を活用しながら学力定着に向けて取り組んでいると思いますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



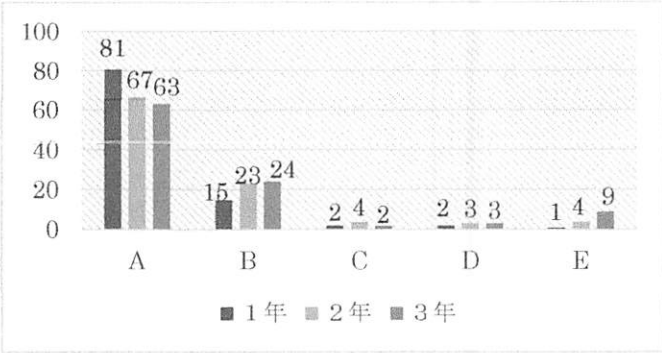
肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	69．4%	−0．5%
保護者	56．2%	+9．1%
教職員	20．9%	−47．5%

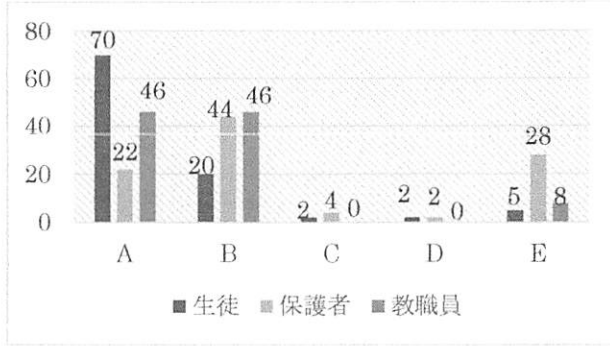
【分析】
コロナ禍において放課後学習等の活動ができない時期もあり、数値的には改善が必要と考えております。今後は授業がわかるから楽しい、その結果として家庭でも学習したくなるという好循環を作れるよう、日々の授業の充実を図ってまいります。

（7）特別の教科「道徳」では、人間としての生き方についての考えを深める学習になっていると思いますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



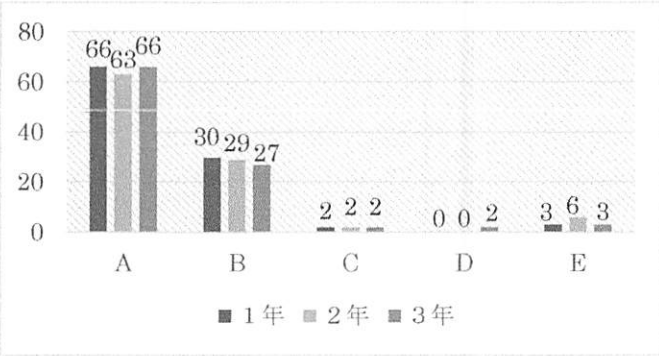
肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	90．4%	+3．0%
保護者	65．5%	+5．8%
教職員	91．6%	+7．3%

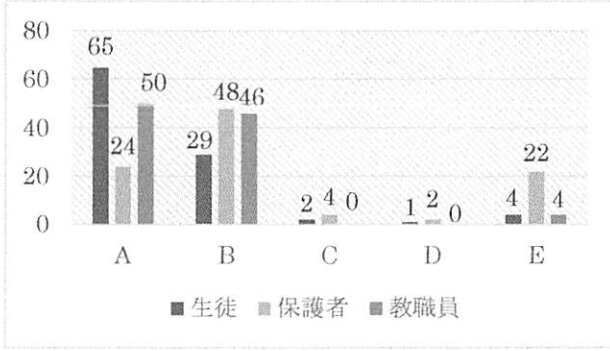
【分析】
「心の教育」は人間としての生き方において最も大切なものと考えております。生徒の評価は概ね満足できる結果となっておりますが、今後は保護者の期待に応える数値（70%以上）を目指して授業改善を図ってまいります。

（8）総合的な学習の時間（東光タイム）では、探究的な見方・考え方を基に、自分達で設定したテーマを解決する学習になっていると思いますか

①生徒



②保護者・生徒・教職員



肯定的な評価（ABの合計）

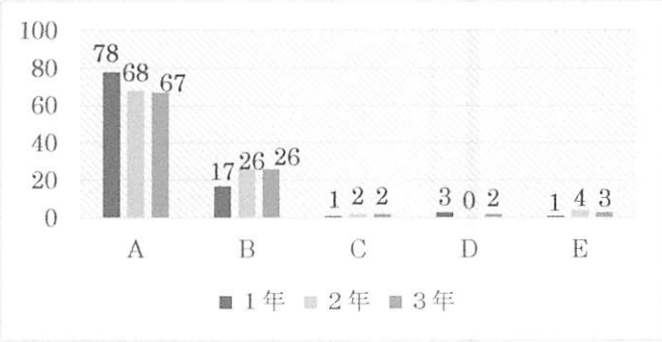
	ABの合計	前年度比
生　徒	93．9%	+8．1%
保護者	72．4%	+13．8%
教職員	95．8%	+22．1%

【分析】
昨年度より総合的な学習の時間の内容を大幅に変更し、生徒が現代的諸課題について考えていく活動を行っております。オリジナルキャラクターの作成や様々な校外活動を通して今後も充実した時間にするよう努めてまいります。

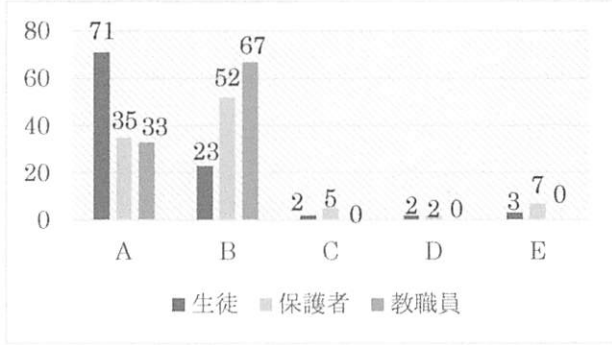
【生活面】

（9）学校は、社会の中で生きていくための基礎と習慣を育てていると思いますか。（挨拶、返事、聴く態度、規則遵守、整理整頓、清潔、安全意識など）

①生徒



②保護者・生徒・教職員



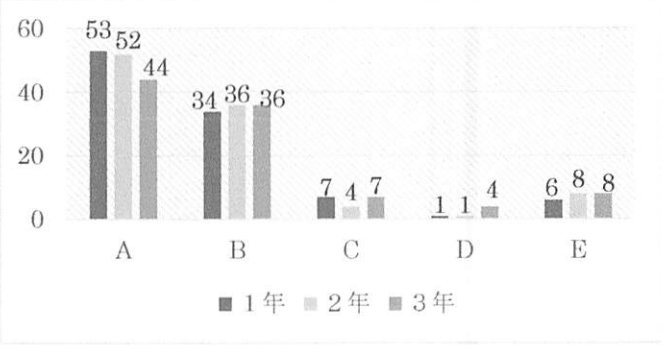
肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	94．1%	−0．8%
保護者	86．9%	＋1．8%
教職員	100%	＋15．8%

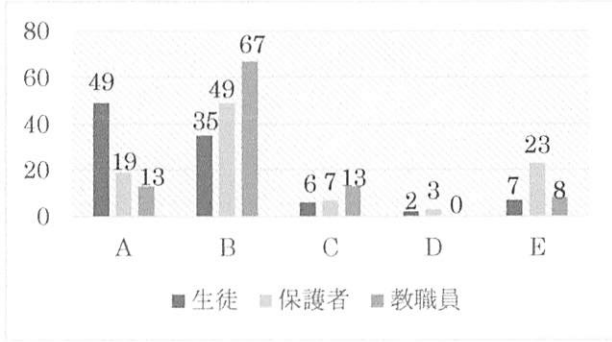
【分析】
生徒及び保護者より概ね満足できる評価をいただきました。本設問項目は生徒が卒業後もよりよく社会とつながりながら、幸せに生きていくために必要な資質・能力として捉え、さらなる育成に努めてまいります。

（10）学校は、主体的に行動する場面、自分で判断し決断する場面を意図的に設定していると思いますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



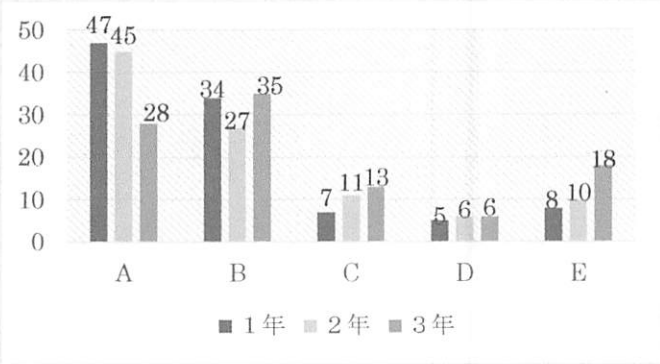
肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	84．6%	＋6．0%
保護者	67．6%	＋6．2%
教職員	79．2%	＋5．5%

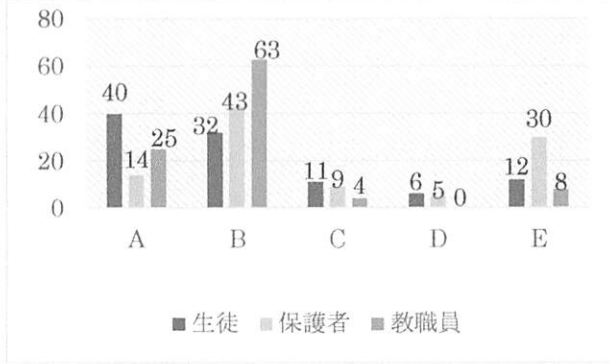
【分析】
本設問項目は予測不可能な将来を生きていく生徒にとって重要な力と捉えています。生徒の評価は概ね満足できる数値ですが、保護者の期待に応える数値（70%以上）を目標として、教育活動の改善を図ってまいります。

（１１）学校は自己肯定感（自分の価値や存在意義を肯定できる感情）を育てることを意識していると思いますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



肯定的な評価（ABの合計）

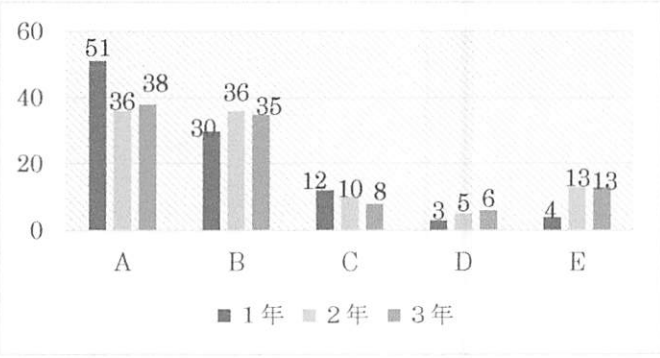
	ABの合計	前年度比
生　徒	７１．８%	＋３．７%
保護者	５６．９%	＋４．４%
教職員	８７．５%	＋１３．８%

【分析】
自己肯定感の高さは日常の様々な活動における重要な要素と考えております。現状の数値では生徒、保護者の期待に応えられていないと判断し、教育活動全体を通して、生徒の自己肯定感を高められるよう努力してまいります。

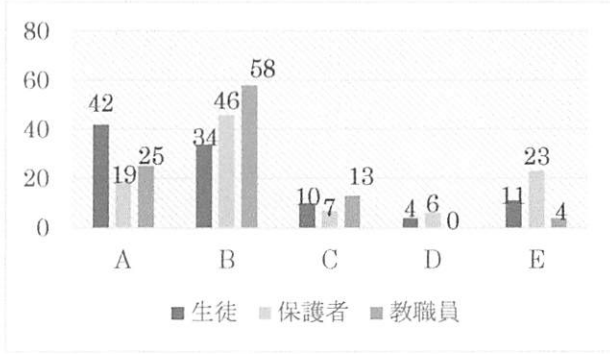
【その他全般】

（１２）先生方は、授業や部活動など様々な場面で、できたら褒める指導を意識していると思いますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



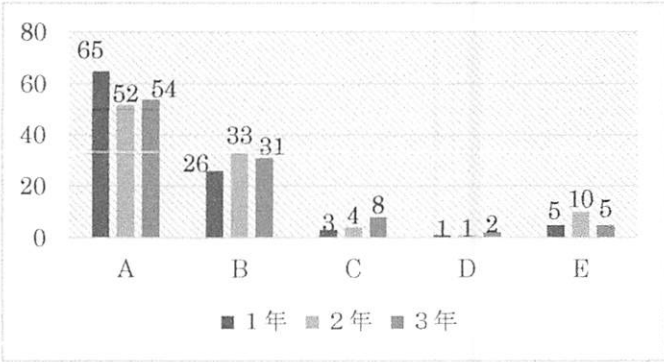
肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	７５．２%	－２．２%
保護者	６４．５%	＋４．５%
教職員	８３．３%	－６．２%

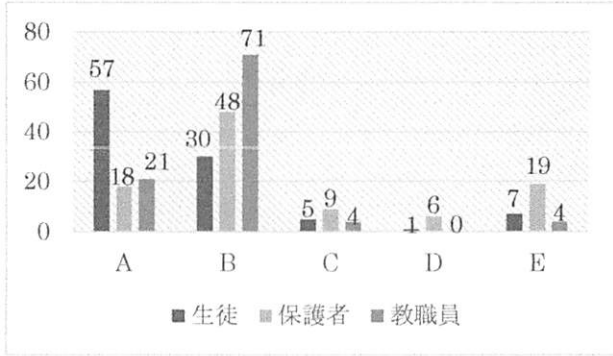
【分析】
褒めることで生徒に自信をもたせ、意欲的な生き方につなげることが教育活動において重要と考えております。生徒の評価は概ね満足できる数値ですが、保護者の期待に応える数値（７０%以上）を目標として、日々の生徒と接する場面において、声のかけ方等を改善してまいります。

（１３）学校行事や生徒会活動は、生徒や地域にとって充実したものになっていると思いますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



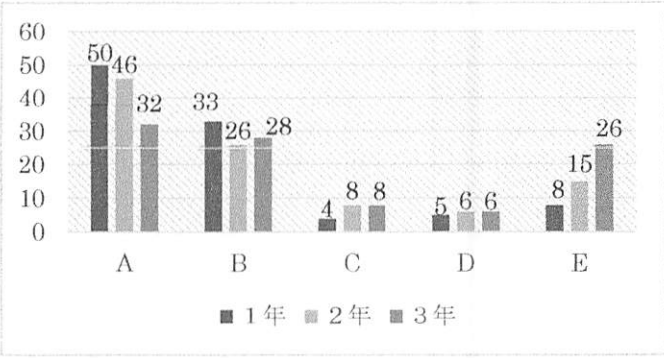
肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	８６．９%	＋５．０%
保護者	６６．２%	＋１．８%
教職員	９１．６%	＋７．４%

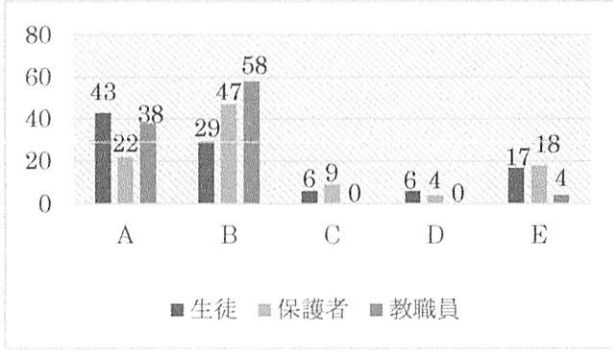
【分析】
コロナ禍において様々な行事が縮小、中止となることが多くありました。また実施できた学校行事においても保護者の来校をご遠慮いただいた結果の数値と捉えております。次年度はコロナ禍が終息することを願いつつ、様々な行事を充実させるよう努めてまいります。

（１４）学校は生徒や保護者の相談や悩みにていねいに対応していると思いますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



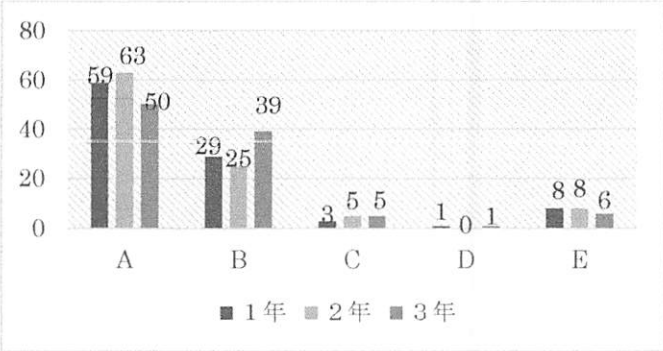
肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	７１．５%	＋６．１%
保護者	６８．７%	＋３．０%
教職員	９５．８%	＋１．０%

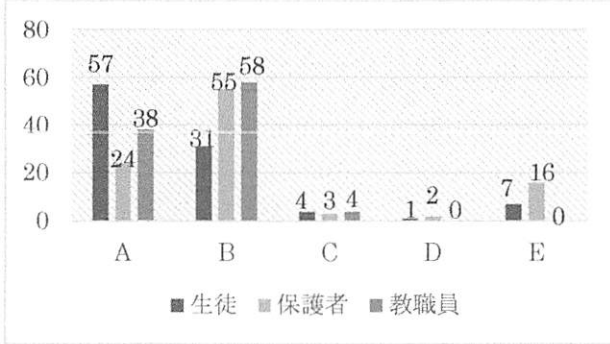
【分析】
生徒から概ね満足できる数値（７０%）ではありますが、本設問項目は学校と生徒及び保護者との信頼関係を計る項目であり、現状に満足することなく、さらなる信頼関係の構築を目指してまいります。

(15)学校は、事故の防止に配慮し、施設・設備の安全確保に努めていると思いますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



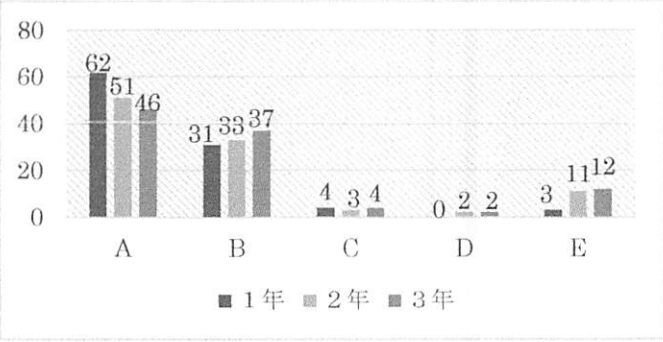
肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	87．8%	+5．3%
保護者	79．0%	+2．4%
教職員	95．8%	+1．0%

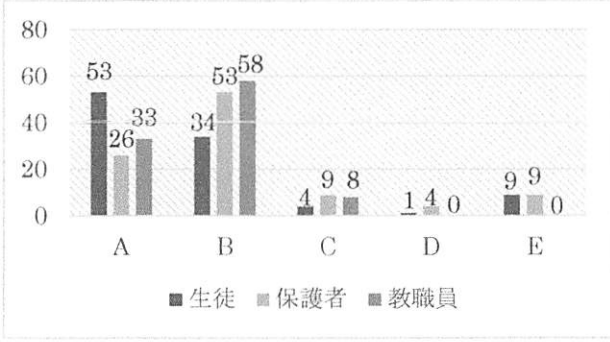
【分析】
生徒・保護者より高い評価をいただけたと捉えておりますが、「事故0」を目指して今後も安全に配慮した中で教育活動を推進してまいります。

(16)学校は、教育活動を保護者に理解・協力してもらえるよう、学校行事や日常の活動について情報を発信していると思いますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



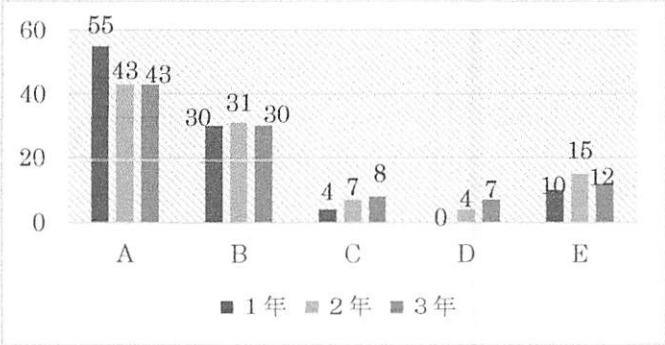
肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	86．0%	+4．1%
保護者	78．3%	±0%
教職員	91．6%	+12．6%

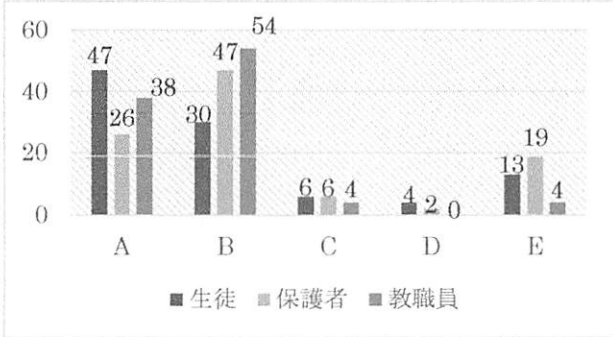
【分析】
生徒及び保護者より高い評価をいただけたと捉えております。今後も学校通信等において授業の様子や学校行事、新たな情報提供に努めてまいります。

（１７）学校は、校区の小学校や地域との繋がりを大切にした教育活動に努めていると思いますか。

①生徒



②保護者・生徒・教職員



肯定的な評価（ABの合計）

	ABの合計	前年度比
生　徒	７７．５%	＋３．４%
保護者	７２．８%	＋４．３%
教職員	９１．７%	－３．０%

【分析】

小学校から中学校への円滑な移行はたいへん重要であり、そのために校区の小中学校で定期的に連携会議を開催しております。今後も学習活動、学校生活等において９年間の一貫した教育活動になるよう努力してまいります。